

調査速報

台湾電子関連企業 月次売上高 (2017年6月)

中国スマホの発注回復、新型 iPhone 向け出荷も立ち上がる

副主任研究員

山鹿 亜紀子

045-225-2375

yamaga@yokohama-ri.co.jp

要約

- 中国スマホの発注が徐々に回復、新型iPhone向け出荷も立ち上がり、市場は再び拡大トレンドへ。
- 半導体関連企業の売上が、新型iPhone向けの出荷開始などにより3か月ぶりに増加。
- きょう体やカメラモジュール、タッチパネル企業の業績も、中国スマホメーカーの部品調達再開や新型タブレット向けの需要伸張を受けて大きく拡大。

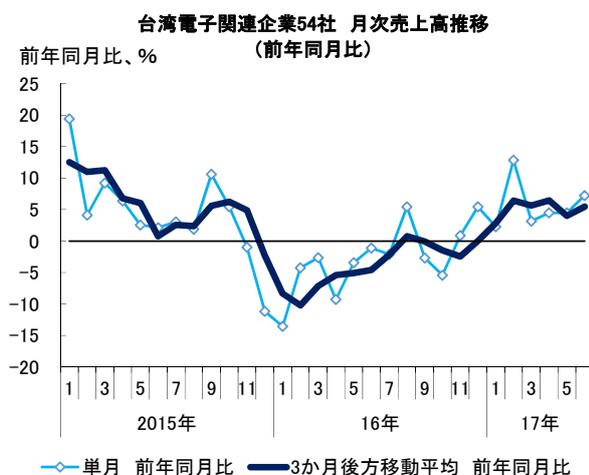
1. 中国スマホの発注が徐々に回復、新型 iPhone 向け出荷も立ち上がり市場は再び拡大トレンドへ

世界の電子部品・デバイス市場の先行指標となる台湾の主要電子関連企業 54 社の 2017 年 6 月の売上高は、前年同月比 7.2%増（前月比 12.7%増）となり、前月に比べて伸び幅が拡大した（図表 1、2）。在庫調整を行っていた中国スマートフォン（以下、スマホ）メーカーの一部が部材調達を再開したことに加え、新型 iPhone 向けの出荷が立ち上がったことなどが、モメンタム回復の背景となった。

分野別には、引き続き EMS（Electronics Manufacturing Service、電子機器の受託生産）や光学部品、PC 周辺機器（マザーボード、きょう体を含む）が伸びているほか、5月に前年同月比でマイナスであった電子部品や半導体関連がプラス成長に転じた。一方、液晶パネルについては、前年同月比で伸びたものの、モメンタムは鈍化している。また、パソコンメーカーの売上高も前年同月比マイナスとなった。

今後については、新型 iPhone 向け出荷が最盛期を迎え、また中国スマホメーカーの発注量も徐々に回復する見込みであることから、市場は再び拡大トレンドに突入すると予想する。ただし、中国スマホメーカーは新型 iPhone の発売を控え、様子を見ながら生産をあげてくると考えられ、中国向けに関しては回復のペースが緩やかなものにとどまると見込む。

図表 1 市場は回復トレンドへ



注: 台湾企業54社はTWSE(台湾証券取引所)に上場している電子関連の代表的な企業を浜銀総合研究所が抽出
出所: Taiwan Stock Exchange, M.O.P.S.より浜銀総合研究所作成

図表 2 前月比は2か月連続でプラス



注: 台湾企業54社はTWSE(台湾証券取引所)に上場している電子関連の代表的な企業を浜銀総合研究所が抽出
出所: Taiwan Stock Exchange, M.O.P.S.より浜銀総合研究所作成

なお、主要 54 社は、EMS 7 社、パソコン 2 社、パソコン周辺機器・マザーボード・きょう体 11 社、液晶パネル 4 社、半導体関連 10 社、電子部品関連 13 社、光学部品関連 7 社で構成されている。以下ではその中でも動きのあった企業群について述べる。

2. EMS は Hon Hai が回復

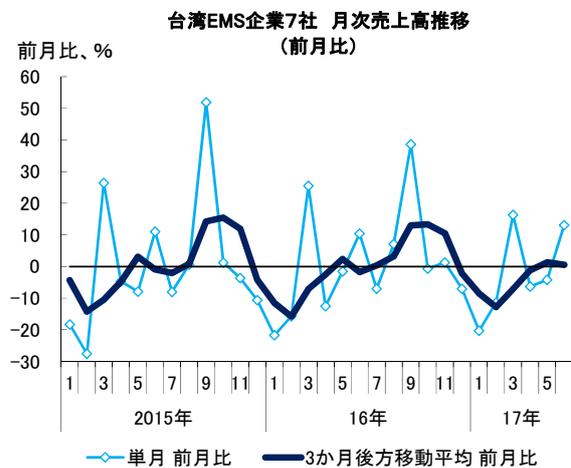
EMS 7 社の 6 月の売上高は、前年同月比 7.9% 増（前月比 13.1% 増）となった（図表 3、4）。Pegatron を除いた 6 社が前年の売上高を上回り、5 月はマイナス成長であった Hon Hai も前年同月比 3.3% 増（前月比 12.6% 増）とプラスに転じた。一般的にノートパソコンやタブレット、液晶テレビ、サーバーなどの製造が堅調であったことが増加の背景である。一部では、新型 iPhone の出荷効果が若干反映されたとの見方があるが、EMS メーカーに新型 iPhone の恩恵が出るのは 7 月以降と考える。

図表 3 EMS の前年同月比伸び率は拡大傾向



注: 台湾EMS企業7社はTWSE(台湾証券取引所)に上場している代表的な企業を浜銀総合研究所が抽出
出所: Taiwan Stock Exchange, M.O.P.S.より浜銀総合研究所作成

図表 4 前月比は 13.1% 増と大きく回復



注: 台湾EMS企業7社はTWSE(台湾証券取引所)に上場している代表的な企業を浜銀総合研究所が抽出
出所: Taiwan Stock Exchange, M.O.P.S.より浜銀総合研究所作成

3. 半導体関連企業は前年同月比でプラスに転換、新型 iPhone 向けプロセッサの生産が立ち上がる

半導体関連企業 10 社の 6 月の売上高は、前年同月比 2.0% 増（前月比 10.9% 増）となり、3 か月ぶりに増加した（図表 5、6）。世界最大の半導体受託生産 TSMC の売上高が前年同月比 3.4% 増（前月比 15.6% 増）と 3 か月ぶりに増加したことが、全体の伸びをけん引した。TSMC の売上増加に貢献したと見られるのが、新型 iPhone に搭載する AP（アプリケーションプロセッサ）である。生産がより本格化するのは 7 月からと想定しているが、6 月にも一部の生産が立ち上がったとみている。

図表5 半導体関連企業は3か月ぶりにプラス



注: 台湾半導体関連企業10社はTWSE(台湾証券取引所)に上場している代表的な企業を浜銀総合研究所が抽出
出所: Taiwan Stock Exchange, M.O.P.S.より浜銀総合研究所作成

図表6 前月比も2けた増と改善の動き



注: 台湾半導体関連企業10社はTWSE(台湾証券取引所)に上場している代表的な企業を浜銀総合研究所が抽出
出所: Taiwan Stock Exchange, M.O.P.S.より浜銀総合研究所作成

4. 電子部品企業の売上高が回復、光学部品関連企業のモメンタムは更に拡大

電子部品企業 13 社の6月の売上高は前年同月比 5.5%増（前月比 12.0%増）となった（表7、8）。メーカーによって動向に差がでているものの、スイッチング電源やプリント配線板、抵抗器など幅広い製品で回復感がみられ、中国スマホメーカー向けの出荷調整が軽減されたことなどが背景と考える。

図表7 電子部品は2か月連続で減少



注: 台湾電子部品企業13社はTWSE(台湾証券取引所)に上場している代表的な企業を浜銀総合研究所が抽出
出所: Taiwan Stock Exchange, M.O.P.S.より浜銀総合研究所作成

図表8 前月比の増勢はやや持ち直す

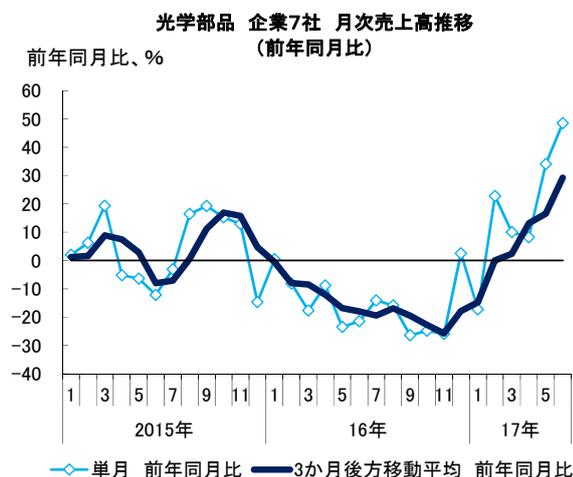


注: 台湾電子部品企業13社はTWSE(台湾証券取引所)に上場している代表的な企業を浜銀総合研究所が抽出
出所: Taiwan Stock Exchange, M.O.P.S.より浜銀総合研究所作成

一方、光学部品企業7社については、6月の売上高が前年同月比 48.5%増（前月比 10.1%増）となり、さらにモメンタムが拡大した（図表9、10）。これは、感圧センサ（タッチの圧力を測るセンサで3Dタッチとも呼ばれる）を手がけるGISや、タッチパネル大手のTPK、バックライトモジュールを手がけるRadiant Opto-Electronicsの売上高が、それぞれ前年同月比 55.6%増、同 178.9%増、同 86.1%増と大幅に拡大し

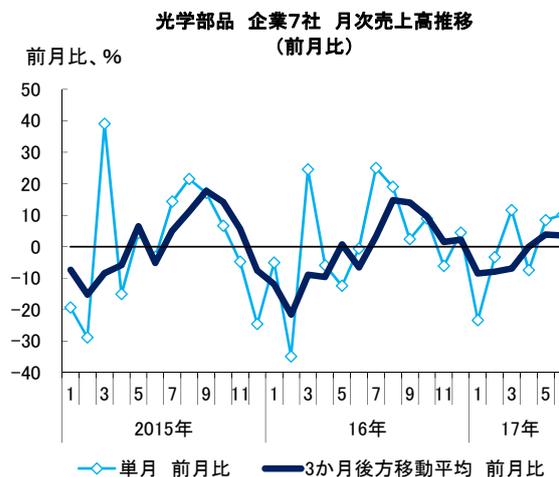
たことが主要因となっている。3社はともにアップルの主要サプライヤーであり、タブレット端末 iPad シリーズの新型が発売されたことなどが、売上増に寄与したとみている。また、カメラレンズモジュールを製造する Largan Precision の売上も引き続き好調であり、中国スマホメーカーからの受注も増加している模様だ。

図表9 光学部品はモメンタムは拡大



注: 台湾光学企業7社はTWSE(台湾証券取引所)に上場している代表的な企業を浜銀総合研究所が抽出
出所: Taiwan Stock Exchange, M.O.P.S.より浜銀総合研究所作成

図表10 前月比の移動平均もプラス圏に



注: 台湾光学企業7社はTWSE(台湾証券取引所)に上場している代表的な企業を浜銀総合研究所が抽出
出所: Taiwan Stock Exchange, M.O.P.S.より浜銀総合研究所作成

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。